獨協医科大学病院麻酔科専門研修プログラム
（大都市圏あるいは大学のモデルプログラム）

1. 専門医制度の理念と専門医の使命

① 麻酔科専門医制度の理念

麻酔科専門医制度は，周術期の患者の生体管理を中心としながら，救急医療や集中治療における生体管理，種々の疾病および手術を起因とする疼痛・緩和医療などの領域において，患者の命を守り，安全で快適な医療を提供できる麻酔科専門医を育成することで，国民の健康・福祉の増進に貢献する．

② 麻酔科専門医の使命

麻酔科学とは，人間が生存し続けるために必要な呼吸器・循環器等の諸条件を整え，生体の侵襲行為である手術が可能なように管理する生体管理医学である．麻酔科専門医は，国民が安心して手術を受けられるように，手術中の麻酔管理のみならず，術前・術中・術後の患者の全身状態を良好に維持・管理するために細心の注意を払って診療を行う，患者の安全の最後の砦となる全身管理のスペシャリストである．同時に，関連分野である集中治療や緩和医療，ペインクリニック，救急医療の分野でも，生体管理学の知識と患者の全身管理の技能を生かし，国民のニーズに応じた高度医療を安全に提供する役割を担う．

2. 専門研修プログラムの概要と特徴

本プログラムは，専門研修期間施設である獨協医科大学病院および各専門研修連携施設(注 1)において，麻酔科専攻医が整備指針に定められた麻酔科専門医研修プログラムの到達目標を達成できる教育を提供し，十分な知識と技術，患者・家族および全医療スタッフから信頼される麻酔科専門医を育成するものである。本プログラムの特徴は以下の 5 点である。

1) 多彩かつ豊富な手術症例を通じて，医療安全と患者の早期回復を目指した麻酔の知識と技術を兼ね備えた麻酔科専門医を育成する。

2) ペインクリニック，東洋医学，緩和ケア等の痛みの診療を通じて，全人的医療を目指したコミュニケーション能力の高い麻酔科医を育成する。

3) 獨協医科大学大学院の社会人大学院制度を通じて，研究マインドの高い麻酔科医を育成する。

4) 学会参加，ボランティア活動，留学等の海外での活動を通じて，国際色豊かな麻酔科医を育成できる。

5)女性医師支援センターを通じて，女性医師にとって最適な職場環境を提供する。

麻酔科専門研修プログラム全般に共通する研修内容の特徴などは別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に記されている．

注 1: 獨協医科大学日光医療センター（栃木県日光市），佐野厚生総合病院（栃木県佐野市），那須赤十字病院（栃木県那須塩原市），古河赤十字病院（茨城県古河市），上都賀総合病院（栃木県鹿沼市），獨協医科大学埼玉医療センター（埼玉県越谷市），SUBARU 健康保険組合太田記念病院（群馬県太田市）

3. 専門研修プログラムの運営方針

- 専門研修基幹施設，専門研修連携施設の何れにおいても研修を開始できる
- 麻酔科専門医研修プログラムの到達目標を達成するために，研修プログラム病院群の 6 施設内でローテーションを行う。
- 病院群内のローテーションは，一定期間の施設間の移動および施設ごとの非常勤医師制度（パート勤務）を利用して行う。
- 研修期間中にペインクリニック，東洋医学，緩和ケア等の痛みの診療に参加し，麻酔管理のみならず痛み関連の専門医も目指す。
- 集中治療や救急医療を希望する専攻医は，専門研修基幹施設の救命救急センターで研修することができる。

研修内容・進行状況に配慮して，プログラムに所属する全ての専攻医が経験目標に必要な特殊麻酔症例数を達成できるように，ローテーションを構築する。

＜研修実施計画例＞

以下の研修計画はあくまでも例であり，個々の希望を十分に配慮する。

獨協医科大学病院で研修開始の場合

- 獨協医科大学病院単独コース A（後期研修および助教にて研修）
- 獨協医科大学病院単独コース B（社会人大学院にて研修）
- 獨協医大病院および**専門研修連携施設コース（最低 2 年獨協医科大学病院にて研修）**

獨協医科大学日光医療センターで研修開始の場合

- 獨協医科大学日光医療センターおよび**専門研修基幹施設コース（最低 1 年間専門研修基幹施設にて研修）**
- 獨協医科大学日光医療センターおよび**専門研修基幹施設・専門研修連携施設コース（最低 1 年間専門研修基幹施設にて研修）**

佐野厚生総合病院で研修スタート

- 佐野厚生総合病院および**専門研修基幹施設コース（最低 1 年間専門研修基幹施設にて研修）**

・ 佐野厚生総合病院および専門研修基幹施設・専門研修連携施設コース（最低１年間専門研修基幹施設にて研修）

那須赤十字病院で研修スタート

・ 那須赤十字病院および専門研修基幹施設コース（最低 1 年間専門研修基幹施設にて研修）
・ 那須赤十字病院および専門研修基幹施設・専門研修連携施設コース（最低１年間責専門研修基幹施設にて研修）

古河赤十字病院で研修スタート

・ 古河赤十字病院および専門研修基幹施設コース（最低 1 年間専門研修基幹施設にて研修）
・ 古河赤十字病院および専門研修基幹施設・専門研修連携施設コース（最低１年間専門研修基幹施設にて研修）

上都賀総合病院で研修スタート

・ 上都賀総合病院および専門研修基幹施設コース（最低 1 年間専門研修基幹施設である獨協医科大学病院あるいは埼玉医科大学病院にて研修）
・ 上都賀総合病院および専門研修基幹施設・専門研修連携施設コース（最低１年間専門研修基幹施設である獨協医科大学病院あるいは埼玉医科大学病院，千葉大学医学部附属病院，自治医科大学附属病院にて研修）

獨協医科大学埼玉医療センターで研修スタート

・ 獨協医科大学埼玉医療センターおよび専門研修基幹施設コース（最低 1 年間専門研修基幹施設である獨協医科大学病院あるいは埼玉医科大学病院にて研修）
・ 獨協医科大学埼玉医療センターおよび専門研修基幹施設・専門研修連携施設コース（最低 1 年間専門研修基幹施設である獨協医科大学埼玉医療センターあるいは埼玉県立小児医療センター，北海道大学病院にて研修）

SUBARU 健康保険組合太田記念病院

・ SUBARU 健康保険組合太田記念病院および専門研修基幹施設コース（最低 1 年間専門研修基幹施設である獨協医科大学病院あるいは埼玉医科大学病院にて研修）
・ SUBARU 健康保険組合太田記念病院および専門研修基幹施設・専門研修連携施設コース（最低 1 年間専門研修基幹施設である獨協医科大学病院あるいは群馬大学医学部附属病院にて研修）

研修実施計画例

	A（標準）	B（小児）	C(ペイン)	D（集中治療）
初年度前期	**専門研修基幹施設**	**専門研修基幹施設**	**専門研修基幹施設**	**専門研修基幹施設**
初年度後期	**専門研修基幹施設**	**専門研修基幹施設**	**専門研修基幹施設**	**専門研修基幹施設**
２年度前期	**専門研修基幹施設**	**専門研修基幹施設**	**専門研修基幹施設**	**専門研修基幹施設，専門研修連携施設**
２年度後期	**専門研修基幹施設**	**専門研修連携施設**	**専門研修基幹施設**（ペイン）	**専門研修基幹施設**（集中治療室）
３年度前期	**専門研修連携施設**	**専門研修連携施設**	**専門研修基幹施設**（ペイン）	**専門研修基幹施設**（救命救急センター）
３年度後期	**専門研修連携施設**	**専門研修連携施設**	**専門研修連携施設**	**専門研修連携施設**
４年度前期	**専門研修連携施設**	**専門研修連携施設**	**専門研修連携施設**	**専門研修連携施設**
４年度後期	**専門研修基幹施設**（ペインまたは集中治療）	**専門研修基幹施設**（ペインまたは集中治療）	**専門研修基幹施設**	**専門研修基幹施設**

注: 専門研修基幹施設は獨協医科大学（上都賀総合病院でスタートする場合は埼玉医科大学病院），専門研修基幹施設は日光医療センター（栃木県日光市），佐野厚生総合病院（栃木県佐野市），那須赤十字病院（栃木県那須塩原市），古河赤十字病院（茨城県古河市），上都賀総合病院（栃木県鹿沼市），獨協医科大学埼玉医療センター（埼玉県越谷市），SUBARU 健康保険組合太田記念病院（群馬県太田市）である．

週間予定表

本院麻酔ローテーションの例

	月	火	水	木	金	土	日
午前	手術室	ペイン外来	手術室	研究	手術室	術前外来	休み
午後	手術室	ペイン外来	手術室	研究	手術室	休み	休み
当直			当直				

4. 研修施設の指導体制と前年度麻酔科管理症例数

本研修プログラム全体における前年度合計麻酔科管理症例数：22,191 症例

本研修プログラム全体における総指導医数：66 人

	合計症例数
小児（6歳未満）の麻酔	636 症例
帝王切開術の麻酔	574 症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	894 症例
胸部外科手術の麻酔	827 症例
脳神経外科手術の麻酔	796 症例

① 専門研修基幹施設

【獨協医科大学病院】

研修プログラム統括責任者：山口重樹　（麻酔，ペインクリニック，緩和ケア）

専門研修指導医：濱口眞輔　（麻酔，ペインクリニック，東洋医学）
木村嘉之　（麻酔，ペインクリニック）
篠崎未緒　（麻酔，ペインクリニック）
高橋良享　（麻酔，ペインクリニック
寺島哲二　（麻酔，ペインクリニック）
白川賢宗　（麻酔，ペインクリニック，緩和ケア）
國分伸一　（麻酔，ペインクリニック）
沼田祐貴　（麻酔，ペインクリニック，心臓血管麻酔）
佐藤雄也　（麻酔，ペインクリニック，心臓血管麻酔）
小松崎　誠（麻酔，ペインクリニック，区域麻酔）
山下雄介　（麻酔，ペインクリニック，心臓血管麻酔）
知野　諭　（麻酔，ペインクリニック）
阿久津和也（麻酔）
人見俊一　（麻酔）
塙　宏基　（麻酔）
小林泰知　（麻酔）

認定病院番号：117

特徴：週1日ペインクリニック研修可能，社会人大学院進学可能，東洋医学外来研修可能，緩和ケア研修可能，集中治療室・救命救急センター研修可能。また，海外ボランティア，海外留学も可能。

麻酔科管理症例数 6,954 症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	300 症例
帝王切開術の麻酔	228 症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	486 症例
胸部外科手術の麻酔	305 症例
脳神経外科手術の麻酔	389 症例

② **専門研修連携施設A**

【獨協医科大学日光医療センター】

研修実施責任者：藤井宏一　（麻酔，ペインクリニック，緩和ケア）

専門研修指導医：緑川由紀夫（麻酔，ペインクリニック）
五月女俊哉（麻酔，ペインクリニック）
江田　梢　（麻酔，ペインクリニック）

認定病院番号：1408

特徴：地域医療支援病院，救命救急センターを持つ地域基幹病院，地域災害拠点病院，地域医療支援病院、救命救急センターを持つ地域基幹病院、地域災害拠点病院、DMAT指定病院、へき地医療拠点病院、二次救急医療（病院郡輪番制病院、救急告示医療機関）、 HCU、ヘリポートあり。麻酔管理、緩和医療、ペインクリニック、在宅診療の経験を通して、日光地域の医療における麻酔科診療のニーズが理解できる。

麻酔科管理症例数 969 症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	0 症例
帝王切開術の麻酔	0 症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	26 症例
胸部外科手術の麻酔	0 症例
脳神経外科手術の麻酔	0 症例

【那須赤十字病院】

研修実施責任者：柿沼宏幸　（麻酔，ペインクリニック）

専門研修指導医：田中貞一　（麻酔，集中治療）
住田直樹　（麻酔，集中治療，救急）
根本真人　（麻酔，集中治療，救急）

景山めぐみ　（麻酔，ペインクリニック）

認定病院番号：565

特徴：地域に根ざし，ともに歩み，心ふれあう病院を目指したマイタウン・マイホスピタルで，救命救急センターを持つ地域基幹病院。周産期センター，NICU，救命部，集中治療部のローテーション可能。また，自治医科大学附属病院，獨協医科大学埼玉医療センターでの研修可能。

麻酔科管理症例数 2.678 症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	4 症例
帝王切開術の麻酔	14 症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0 症例
胸部外科手術の麻酔	0 症例
脳神経外科手術の麻酔	137 症例

【上都賀総合病院】

研修実施責任者：髙山尚美　（麻酔，集中治療）

専門研修指導医：山田茂久　（麻酔）
鈴木香合　（麻酔）
髙橋深雪　（麻酔）
方山加奈　（麻酔）

認定病院番号：849

特徴：地域中核病院，総合病院として外科、整形外科、産婦人科をはじめ各科の手術麻酔が経験できる。早期離床、リハビリ、退院に向けて、特に高齢者の周術期管理に力を入れている。また、二次救急病院のため、緊急手術の研修が可能である。また，災害拠点病院にも指定されている。

麻酔科管理症例数 1,582 症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	5 症例
帝王切開術の麻酔	37 症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0 症例
胸部外科手術の麻酔	3 症例
脳神経外科手術の麻酔	6 症例

【獨協医科大学埼玉医療センター】

研修実施責任者：奥田泰久　（麻酔，ペインクリニック）

専門研修指導医：浅井　隆　（麻酔，医学統計、気道確保）
新井丈郎　（麻酔，心臓麻酔）
齋藤朋之　（麻酔，気道確保）
齊間俊介　（麻酔，神経ブロック）
橋本雄一　（麻酔，産科麻酔）
鈴木博明　（麻酔，心臓麻酔，小児麻酔）
遠藤聖子　（麻酔，小児麻酔，心臓麻酔）
高橋　慧　（麻酔，心臓麻酔）
菊地　梓　（麻酔）
立川真人　（麻酔，ペインクリニック）
宮﨑真理恵（麻酔）
卜部　一弘（麻酔）
鶴町直威　（麻酔）
藤城明日香（麻酔）
鹿島田瞬也（麻酔）
永山　英寿（麻酔）
増井　克秀（麻酔）
小川　理恵（麻酔）
坂口　伶奈（麻酔）

認定病院番号：339

特徴：開心術,TAVIやステントグラフトなどのハイブリット手術,一般的な小児外科手術,帝王切開術,ダヴィンチ・ヒノトリ手術,Awake craniotomy,腎移植術など,幅広く症例を経験出来る。

麻酔科管理症例数 7,035 症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	302 症例
帝王切開術の麻酔	186 症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	382 症例
胸部外科手術の麻酔	390 症例
脳神経外科手術の麻酔	212 症例

【SUBARU健康保険組合太田記念病院】

研修実施責任者：矢島　聡（麻酔，集中治療）

専門研修指導医：　松本晶平　（麻酔，集中治療）
小澤拓郎　（麻酔，集中治療）
大島正行　（麻酔，集中治療，心臓麻酔，ペインクリニック）
高橋佳奈子（麻酔，心臓麻酔）
山田　紅緒（麻酔，集中治療）
前原　智　（麻酔，集中治療）
中田　翔　（麻酔，集中治療）

認定病院番号：537

特徴：三県にまたがる広範囲の基幹病院として、心臓血管外科や脳神経外科、小児外科を含む多彩な手術麻酔を経験でき、若いうちから高難易度の症例に携わることができる。また救命救急センターを併設しているため、重症外傷や急性期管理のスキルを磨きやすく、周術期管理全般に強い麻酔科医を目指せる環境である。指導医との距離が近く、手技の機会が豊富に与えられるため、臨床現場での即戦力となる技術（気道管理や神経ブロックなど）を効率的に習得できる。

麻酔科管理症例数 2,990 症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	91 症例
帝王切開術の麻酔	58 症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	93 症例
胸部外科手術の麻酔	79 症例
脳神経外科手術の麻酔	53 症例

③　専門研修連携施設B

【佐野厚生総合病院】

研修実施責任者：坂口結夢　（麻酔，ペインクリニック）

専門研修指導医：　小林俊哉　（麻酔，ペインクリニック）
清水貴仁　（麻酔，ペインクリニック）

認定病院番号：627

特徴：協同の精神と思いやりの心を基本理念とした地域災害拠点病院，重点医療機関，がん診療連携拠点指定病院，脳卒中地域拠点医療機である。週1日ペインクリニック研修可能，日本農村医学会での活動もある。

麻酔科管理症例数 2,311 症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	25 症例
帝王切開術の麻酔	109 症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0 症例
胸部外科手術の麻酔	133 症例
脳神経外科手術の麻酔	52 症例

【古河赤十字病院】

研修実施責任者：加瀬幸子　（麻酔，ペインクリニック，東洋医学）

専門研修指導医： 福田裕也　（麻酔）

認定病院番号：1725

特徴：地域医療支援病院，災害拠点病院。脳外科．心臓血管外科（2群）の手術麻酔あり。ペインクリニック，東洋医学診療も行っている。

麻酔科管理症例数 662 症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	0 症例
帝王切開術の麻酔	0 症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0 症例
胸部外科手術の麻酔	0 症例
脳神経外科手術の麻酔	0 症例

5. **募集定員**

10 名

6. **専攻医の採用と問い合わせ先**

①　採用方法

専攻医に応募する者は，日本専門医機構に定められた方法により，期限までに（2022年９月ごろを予定）志望の研修プログラムに応募する．

④　問い合わせ先

本研修プログラムへの問い合わせは，獨協医科大学病院麻酔科専門研修プログラム電話，e-mail，郵送のいずれの方法でも可能である．

獨協医科大学病院　麻酔科学講座 山口重樹　教授
栃木県下都賀郡壬生町北小林大字880番地
TEL 0282-86-1111 FAX 0282-86-0478
E-mail shigeki@dokkyomed.ac.jp

7. 麻酔科医資格取得のために研修中に修めるべき知識・技能・態度について

① 専門研修で得られる成果（アウトカム）

麻酔科領域の専門医を目指す専攻医は，4年間の専門研修を修了することで，安全で質の高い周術期医療およびその関連分野の診療を実践し，国民の健康と福祉の増進に寄与することができるようになる．具体的には，専攻医は専門研修を通じて下記の4つの資質を修得した医師となる．

１）十分な麻酔科領域，および麻酔科関連領域の専門知識と技能
２）刻々と変わる臨床現場における，適切な臨床的判断能力，問題解決能力
３）医の倫理に配慮し，診療を行う上での適切な態度，習慣
４）常に進歩する医療・医学に則して，生涯を通じて研鑽を継続する向上心

麻酔科専門研修後には，大学院への進学やサブスペシャリティー領域の専門研修を開始する準備も整っており，専門医取得後もシームレスに次の段階に進み，個々のスキルアップを図ることが出来る．

② 麻酔科専門研修の到達目標

国民に安全な周術期医療を提供できる能力を十分に備えるために，研修期間中に別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた専門知識，専門技能，学問的姿勢，医師としての倫理性と社会性に関する到達目標を達成する．

③ 麻酔科専門研修の経験目標

研修期間中に専門医としての十分な知識，技能，態度を備えるために，別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた経験すべき疾患・病態，経験すべき診療・検査，経験すべき麻酔症例，学術活動の経験目標を達成する．

このうちの経験症例に関して，原則として研修プログラム外の施設での経験症例は算定できないが，地域医療の維持など特別の目的がある場合に限り，研修プログラム管理委員会が認めた認定病院において卒後臨床研修期間に経験した症例のうち，専門研修指導医が指導した症例に限っては，専門研修の経験症例数として数えることができる．

8. 専門研修方法

別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた１）臨床現場での学習，２）臨床現場を離れた学習，３）自己学習により，専門医としてふさわしい水準の知識，技能，態度を修得する．

9. 専門研修中の年次毎の知識・技能・態度の修練プロセス

専攻医は研修カリキュラムに沿って，下記のように専門研修の年次毎の知識・技能・態度の到達目標を達成する．

専門研修１年目

手術麻酔に必要な基本的な手技と専門知識を修得し，ASA１～２度の患者の通常の定時手術に対して，指導医の指導の元，安全に周術期管理を行うことができる．

専門研修２年目

１年目で修得した技能，知識をさらに発展させ，全身状態の悪いASA３度の患者の周術期管理やASA１～２度の緊急手術の周術期管理を，指導医の指導のもと，安全に行うことができる．

専門研修３年目

心臓外科手術，胸部外科手術，脳神経外科手術，帝王切開手術，小児手術などを経験し，さまざまな特殊症例の周術期管理を指導医のもと，安全に行うことができる．また，ペインクリニック，集中治療，救急医療など関連領域の臨床に携わり，知識・技能を修得する．

専門研修４年目

３年目の経験をさらに発展させ，さまざまな症例の周術期管理を安全に行うことができる．基本的にトラブルのない症例は一人で周術期管理ができるが，難易度の高い症例，緊急時などは適切に上級医をコールして，患者の安全を守ることができる．

10. 専門研修の評価（自己評価と他者評価）

① 形成的評価

- 研修実績記録：専攻医は毎研修年次末に，**専攻医研修実績記録フォーマット**を用いて自らの研修実績を記録する．研修実績記録は各施設の専門研修指導医に渡される．
- 専門研修指導医による評価とフィードバック：研修実績記録に基づき，専門研修指導医は各専攻医の年次ごとの知識・技能・適切な態度の修得状況を形成的評価

し，**研修実績および到達度評価表**，**指導記録フォーマット**によるフィードバックを行う．研修プログラム管理委員会は，各施設における全専攻医の評価を年次ごとに集計し，専攻医の次年次以降の研修内容に反映させる．

② 総括的評価

研修プログラム管理委員会において，専門研修４年次の最終月に，**専攻医研修実績フォーマット**，**研修実績および到達度評価表**，**指導記録フォーマット**をもとに，研修カリキュラムに示されている評価項目と評価基準に基づいて，各専攻医が専門医にふさわしい①専門知識，②専門技能，③医師として備えるべき学問的姿勢，倫理性，社会性，適性等を修得したかを総合的に評価し，専門研修プログラムを修了するのに相応しい水準に達しているかを判定する．

11. 専門研修プログラムの修了要件

各専攻医が研修カリキュラムに定めた到達目標，経験すべき症例数を達成し，知識，技能，態度が専門医にふさわしい水準にあるかどうかが修了要件である．各施設の研修実施責任者が集まる研修プログラム管理委員会において，研修期間中に行われた形成的評価，総括的評価を元に修了判定が行われる．

12. 専攻医による専門研修指導医および研修プログラムに対する評価

専攻医は，毎年次末に専門研修指導医および研修プログラムに対する評価を行い，研修プログラム管理委員会に提出する．評価を行ったことで，専攻医が不利益を被らないように，研修プログラム統括責任者は，専攻医個人を特定できないような配慮を行う義務がある．

研修プログラム統括管理者は，この評価に基づいて，すべての所属する専攻医に対する適切な研修を担保するために，自律的に研修プログラムの改善を行う義務を有する．

13. 専門研修の休止・中断，研修プログラムの移動

① 専門研修の休止

- 専攻医本人の申し出に基づき，研修プログラム管理委員会が判断を行う．
- 出産あるいは疾病などに伴う６ヶ月以内の休止は 1 回までは研修期間に含まれる．
- 妊娠・出産・育児・介護・長期療養・留学・大学院進学など正当な理由がある場合は，連続して 2 年迄休止を認めることとする．休止期間は研修期間に含まれない．研修プログラムの休止回数に制限はなく，休止期間が連続して 2 年を越えていなければ，それまでの研修期間はすべて認められ，通算して 4 年の研修期間を満たせばプログラムを修了したものとみなす．
- 2 年を越えて研修プログラムを休止した場合は，それまでの研修期間は認められな

い．ただし，地域枠コースを卒業し医師免許を取得した者については，卒後に課せられた義務を果たすために特例扱いとし 2 年以上の休止を認める．

② 専門研修の中断

- 専攻医が専門研修を中断する場合は，研修プログラム管理委員会を通じて日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会へ通知をする．
- 専門研修の中断については，専攻医が臨床研修を継続することが困難であると判断した場合，研修プログラム管理委員会から専攻医に対し専門研修の中断を勧告できる．

③ 研修プログラムの移動

- 専攻医は，やむを得ない場合，研修期間中に研修プログラムを移動することができる．その際は移動元，移動先双方の研修プログラム管理委員会を通じて，日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会の承認を得る必要がある．麻酔科領域研修委員会は移動をしても当該専攻医が到達目標の達成が見込まれる場合にのみ移動を認める．

14. 地域医療への対応

本研修プログラムの連携施設には，地域医療の中核病院としての獨協医科大学日光医療センター，佐野厚生総合病院，那須赤十字病院，古河赤十字病院，上都賀総合病院，獨協医科大学埼玉医療センターなど幅広い連携施設が入っている．医療資源の少ない地域においても安全な手術の施行に際し，適切な知識と技量に裏付けられた麻酔診療の実施は必要不可欠であるため，専攻医は，大病院だけでなく，地域での中小規模の研修連携施設においても一定の期間は麻酔研修を行い，当該地域における麻酔診療のニーズを理解する．

15.専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）

研修期間中に常勤として在籍する研修施設の就業規則に基づき就業することとなります．専攻医の就業環境に関して，各研修施設は労働基準法や医療法を順守することを原則とします．プログラム統括責任者および各施設の研修責任者は専攻医の適切な労働環境（設備，労働時間，当直回数，勤務条件，給与なども含む）の整備に努めるとともに、心身の健康維持に配慮します．

年次評価を行う際，専攻医および専門研修指導医は研修施設に対する評価（Evaluation）も行い，その内容を専門研修プログラム管理委員会に報告する． 就業環境に改善が必要であると判断した場合には、当該施設の施設長、研修責任者に文書で通達・指導します．